

安全データシート

作成日 2017年6月30日

改訂日 2024年12月6日

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	メタクリル酸エチル(EMA)
会社名	アーク株式会社
住所	大阪府中央区安土町3-5-13 本町ガーデンシティテラス3階
電話番号	06-6563-7710
FAX番号	06-6563-7720
推奨用途及び使用上の制限	塗料、繊維処理剤、接着剤、成形材料

2. 危険有害性の要約

GHS分類 JIS Z 7252、7253:2019 使用

物理化学的危険性	引火性液体	区分2
健康に対する有害性	急性毒性(吸入)	区分4
	皮膚感作性	区分1
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性)
環境に対する有害性	該当する区分なし	

GHSラベル要素
絵表示又はシンボル注意喚起語
危険有害性情報

危険
引火性液体及び蒸気
吸入すると有害
呼吸器への刺激のおそれ
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

注意書き
安全対策

熱、火花、裸火のような着火源から遠ざけること。—禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器および受器を接地すること。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。

火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する措置を講ずること
適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
適切な個人用保護具を使用すること。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
環境への放出を避けること。

応急措置

火災の場合には適切な消火方法をとること。
吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚又は毛に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。

皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを求めること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。

ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。

換気の良い冷所で保管すること。

施錠して保管すること。

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

保管

破棄

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

化学名又は一般名

別名

分子式(分子量)

化学特性(示性式又は構造式)

CAS番号

官報公示整理番号

濃度又は濃度範囲

化学物質

メタクリル酸エチル

Methacrylic Acid Ethyl Ester

C6H10O2 (114.14)

CH₂C(CH₃)COOC₂H₅

97-63-2

化審法:(2)-1039、安衛法:公表化学物質

≧99.5%

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、又は取り去ること。

皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

個人用保護具をちやく要すること。

5. 火災時の措置

消火剤

使ってはならない消火剤

特有の危険有害性

水噴霧、二酸化炭素、泡、粉末消火剤、砂

水噴霧、二酸化炭素、泡、粉末消火剤、砂

熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。

火災に巻き込まれると、爆発的に重合するおそれがある。

下水溝に流れ込むと火災、爆発の危険がある。

火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
 引火点が極めて低い・散水以外の消火剤で消火の効果がな
 い大きな火災の場合には散水する。

消火を行う者の保護

適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および 緊急措置

作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び保護措置』
 の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項 回収・中和

全ての着火源を取り除く。
 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離す
 る。

封じ込め及び浄化方法・機材

関係者以外の立入りを禁止する。
 密閉された場所に立入る前に換気する。
 環境中に放出してはならない。
 不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、
 化学品廃棄容器に入れる。

二次災害の防止策

危険でなければ漏れを止める。
 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火
 災の禁止)。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策

火気厳禁。高温物、スパークを避ける。

注意事項

強酸化剤との接触を避ける。

局所排気装置を使用すること。

容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴
 な扱いをしない。

漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を
 発生させない。

使用後は容器を密閉する。

取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。

指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。

休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んで是不
 ならない。

安全取扱い注意事項

取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

静電気放電(有機物の蒸気を引火させうる)を避けるために必
 要な措置をとる。

個人用保護具を着用すること。

皮膚、眼、衣服との接触を避ける。

保管

安全な保管条件

保管条件

安全な容器包装材料

混触禁止物質

容器は遮光し、換気の良いなるべく涼しい場所に密閉して保
 ガラス
 強酸化剤

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度(ばく露限界値、生物学的ば く露指標)

日本産衛学会(2007年版) 未設定

	ACGIH(2007年版)	未設定
設備対策		<p>防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。</p> <p>ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置すること。</p>
保護具	<p>呼吸器の保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具</p>	<p>適切な呼吸器保護具を着用すること。 適切な保護手袋を着用すること。 適切な眼の保護具を着用すること。 適切な保護衣を着用すること。</p>
衛生対策		<p>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。</p>

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
形状	透明
色	無色
臭い	特異臭
pH	情報なし
融点・凝固点	-75°C
沸点、初留点及び沸騰範囲	117°C
引火点	20°C
自然発火温度	411°C
爆発下限界及び上限界／可燃限界	<p>下限:1.8%、 上限:情報なし</p>
蒸気圧	1,87kPa (20°C)
相対ガス密度	3.9
溶解度	水: 不溶
オクタノール・水分配係数	<p>その他溶剤 可溶:エーテル、アルコール 情報なし</p>

10. 安定性及び反応性

反応性	<p>加熱または光により重合することがある。 酸化剤と接触すると反応することがある。 通常条件で安定である。 特別に反応性は報告されていない。</p>
化学的安定性	
危険有害反応可能性	<p>熱、火花、裸火、静電放電、光 酸化剤</p>
避けるべき条件	<p>二酸化炭素、一酸化炭素</p>
混触危険物質	
危険有害な分解生成物	

11. 有害性情報

急性毒性 経口	ラット LD50=12,700-18,140 mg/kg
経皮	ウサギ LD50>9,100mg/kg
吸入	ラット LC50=8,300 ppm/4h
皮膚腐食性／刺激性	<p>ヒトの症例でアレルギー性の接触皮膚炎を起こすと記述されている。 分類できない。</p>
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	情報なし
呼吸器感受性又は皮膚感受性	<p>呼吸器感受性: データなし 皮膚感受性: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ モルモットを用いたMaximization試験で陽性、またパッチテストで、多くの皮膚炎の患者(その一部は作業に関連して皮膚炎になった者)や、メタクリル酸エチルにばく露またはばく露した可能性のあるヒトに陽性を示したことから区分1とした。</p>

生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	ラットの腹腔内投与により胎児毒性と催奇形性が認められたと報告されている。一方、吸入ばく露では胚致死および催奇形性を生じなかったと記述されている。一部は腹腔内投与のデータであり、情報も少なく試験結果の整合性についても判断できないので分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	呼吸器への刺激のおそれ ラットの経口投与試験でガイダンスの区分外である12700-18140 mg/kgの用量で呼吸器系の障害、ラットの吸入試験で気道刺激を引き起こした。また、蒸気がヒトの粘膜刺激および単量体のばく露による中枢神経障害の可能性を記述している。一方、EU分類はR37である。これらの情報から区分3(気道刺激性)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットの60日間の経口投与試験においてガイダンスの区分2を超える6570 mg/kg、600 mg/kgの用量において脳、脊髄の変性等の記述があるが、データ不足で分類できない。
誤えん有害性	情報なし
12. 環境影響情報	
水生環境有害性 短期(急性)	情報なし
水生環境有害性 長期(慢性)	甲殻類(オオミジンコ) NOEC=18 mg/L/21-day
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性(BCF)	情報なし
土壤中の移動性	
オクタノール/水分係数	情報なし
土壌吸着係数(Koc)	情報なし
ヘンリー定数(PaM ³ /mol)	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国際規制	
陸上輸送(ADR/RID)	
国連番号	2277
品名	ETHYL MEHTACRYLATE, STABILIZED
国連分類	クラス3(引火性液体)
容器等級	II
海洋汚染物質	非該当
海上輸送(IMDG)	
国連番号	2277
品名	ETHYL MEHTACRYLATE, STABILIZED
国連分類	クラス3(引火性液体)
容器等級	II

海洋汚染物質	非該当
航空輸送(IATA)	
国連番号	2277
品名	ETHYL MEHTACRYLATE, STABILIZED
国連分類	クラス3(引火性液体)
容器等級	II
環境有害物質	非該当

15. 適用法令

消防法	第4類 第一石油類 危険等級II
労働安全衛生法	危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号) 皮膚等障害化学物質等(規則 第594条の2 第1項) R7年4月1日より 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2) 優先評価化学物質(法第2条第5項)
化審法	優先評価化学物質(法第2条第5項)
危険物船舶運送及び貯蔵規則	引火性液体類(危規則第3条危険物告示別表第1)
航空法	引火性液体類(施行規則第194条危険物告示別表第1)
海洋汚染防止法	施行令別表第1 有害液体物質 Y類物質
化学物質排出把握管理促進法(PRT R法)	非該当

16. その他の情報

参考文献	各データ毎に記載した。
------	-------------